

## 第2回 精華町上下水道事業審議会 議事録

### 日時

平成30年2月7日（水）午後2時～午後4時半

### 場所

精華町上下水道部事務所 2階 会議室

### 出席者

川勝会長、小島副会長、片上委員、木村委員、白畑委員  
高橋委員、鳥生委員、長谷川委員、吉田委員

### 欠席者

西島委員

### 事務局

浦西上下水道部長、吉田上水道課長、川嶋下水道課長、笹木上水道課長補佐、  
吉岡上水道課長補佐、中西上水道担当課長補佐、岡本下水道担当課長補佐、  
村田上水道課営業係長、岡田上水道課営業担当係長、岩井上水道課施設建設係長、  
山田下水道課庶務係長、上田下水道課下水道係長

### 傍聴者

なし

### 議事

#### 1. 開会

開会宣言  
事務局長あいさつ  
審議会成立確認

#### 2. 前回質疑の回答

（事務局）前回ご質問いただきました内容について、お答えさせていただきます。  
まず、現在引いている管路施設の老朽化が、実際どれくらい進んでいるのかにつきまして、地方公営企業法施行規則に規定されている耐用年数で見ますと、管路総延長に対し約2%が耐用年数を超えている状況でありまして、今後管更新事業により解消される見込みです。次に、耐用年数を超えてしまっている資産がどれくらいあるのかにつきましては、同

じく地方公営企業法施行規則に規定されている耐用年数で見ますと、管路、施設及び設備の全資産のうち約23%の資産が耐用年数を超えている状況であります。最後に、ここ20年で施設更新費用が毎年8億円ずつ必要であると資料で出ておりますが、現実的な数字なのかというご質問につきまして、地方公営企業法施行規則に規定されている耐用年数通りに施設の更新を行うという設定で試算いたしますと、今後年間8億円が必要となるという、参考上の数値と考えております。

### 3. 審議事項

#### ①精華町上水道事業の計画と経営状況について（資料－1）

- ・ 前回審議会の振り返り
- ・ 事務局から資料－1の内容を説明
- ・ 質疑

#### 【主な質疑】

（長谷川委員） 精華町は水道料金をかなり安く抑えているかと思いますが、震災等の事故対策や、職員の減少など、将来的なことを考えると、今後何か対策を打ち出していく必要があるかと思います。合わせて、検針等様々な業務についても何か新しい動きが重要ではないかと思いますが、どうお考えでしょうか。

（事務局） 災害対策につきましては、我々も一番恐れているところでございます。本町でも施設の耐震化や更新など、今後様々な検討課題が出てくるかと思っております。そういったことも踏まえ、今後、施設の耐震化や更新も含めた計画を進めていきたいと考えております。また職員の減少に関しましては、技術者の高齢化が進んでおります。水道職は経験がないとなかなか難しいものでありますので、若手職員に経験をさせることや、本町の人事担当課とも人事ヒヤリングを通して、引き続き調整を行っていきたいと思っております。検針業務の件につきましては、現在シルバー人材センターに業務委託をしておりますが、検針範囲を広げることで、コストが安価になるという考え方もございます。そういったことも踏まえて、今後、人材育成を進めていくと共に、検針業務の広域化や民間委託へ移行など、京都府の方から様々なメニューを出していただいておりますので、京都府と共に検討を進めて参ります。また、各自治体でも様々なノウハウを持っておられますが、なかなか協力体制が取れていない現状がございます。その中で、まずは木津系で協力をし、京都府の指導を受けながら、広域化や民間委託も視野に入れた検討を進めていく必要があると考えております。

（木村委員） 行政が水のことをよりアピールしていく必要があるかと思いますが、どのような取り組みをされていますか。

(事務局) 以前はせいか祭りで施設の公開を行っていましたが、現在は行っておりません。現在も施設公開の要望がありましたら、その都度、施設公開をさせていただいておりますが、住民の皆様により水道事業について知っていただけるよう、今後の課題としまして、検討させていただきます。

(会長) 精華町の水道料金は他の自治体より、かなり安い価格で設定されておりますが、この料金価格は適正なのでしょうか。また、平成 23 年度から料金改定は行われていないとのことですが、料金価格につきまして、どうお考えでしょうか。

(事務局) 本町の水道料金がなぜ安いのかについてご説明させていただきます。精華町では、本町を含めた、木津川市、京田辺市周辺での学研都市の開発が行われてきました。ところが開発が始まったからと言って、すぐに人口が張り付く訳ではございません。今現在の学研開発地区と言われる、光台、精華台、桜が丘の人口を見ますと、当初の計画人口の約 80% といったところでございます。そこで人口が張り付くまでは、開発者から負担金をいただいております、その負担金を活用して、水の使用料を安く抑えております。また、平成 23 年度の料金改定において、料金の値下げを行いましたのは、京都府営水道から受水をしております、本町を含めた 12 の市町から京都府に対して、単価を下げて欲しいとの要望を行いました。それを踏まえて、知事の判断により京都府営水道の受水単価が下がりました。それに伴い、本町も水道料金を下げるに至った訳でございます。

(吉田委員) 今後売上を伸ばしていく為に、どのくらいの水道料金の値上げをするかなど、具体的な目標値や設定値はありますか。

(事務局) どこまでの値上げをするのかに関しまして、資料-1P8 のグラフにあります給水原価と供給単価が平衡になることが経営的に見た理想となりますが、一挙にここまでといった具体的数値は現段階ではございません。また、料金には水道施設の更新といった費用も含まれますので、それらも踏まえた上で、今後も十分な検討をしていかなければなりません。

(会長) 精華町が他の自治体よりも低く料金設定されている経緯や今後についてご説明をいただきました。ただ、今日の水道事業の経営状況を見渡した時に、水道料金だけでは賄いきれないコストを基金から繰り入れ、しかもその額も大きく、財政を圧迫しているといった現状もありますので、そういった状況を踏まえて、是非料金については、引き続き検討を行っていただきたい。

## ②精華町公共下水道事業の計画と経営状況について (資料-2)

- ・ 前回審議会の振り返り
- ・ 事務局から資料-2 の内容を説明
- ・ 質疑

### 【主な質疑】

(鳥生委員) 売り上げを上げることが大切であるのと同じように、費用を抑えることも重要であると考えますが、費用を抑えることについて、何かお考えでしょうか。また、上水道では様々な地域がある中で、料金の統一化を図っていく動きが府の方でもあるとお聞きしたのですが、同じように下水道では府がこういった動きをされる、もしくは、精華町が今後府に求めていくといった動きはないのでしょうか。

(事務局) 各流域下水道は、関係する市町で構成をされておりまして、流域下水道ごとに処理の量に違いがあり、処理単価が全ての流域下水道で統一されることはないと思います。処理費用を抑えるということで、木津川上流浄化センターの処理費用を如何に下げただけなのかということで、京都府に要望させていただいております。しかしながら、施設も平成11年から20年近くが経ち、それに伴う維持費等も掛かりますので、なかなか処理費用が安くなることは難しいのではないかと思います。

(鳥生委員) 資料-2P10の財政収支の現状見通しの棒グラフにて、平成28年度以降、基準外繰入金額が跳ね上がるのは何故でしょうか。

(事務局) こちらの資料につきまして、平成28年度までは決算を元にグラフを作成しており、平成29年度は予算で、平成30年度以降は見込みの数値で作成しております。

(鳥生委員) 地方債の発行額が28年度まで3億6千万ほどあり、これがいわゆる建設改良費だと思いますが、工事請負費よりも大きい額になっています。建設改良費以外はこういった名目で出されているのでしょうか。

(事務局) 地方債の発行ですが、本町の污水建設工事の他に、処理場の建設負担金等もありますので、本町の工事費だけとは限りません。

(会長) 精華町に限った話ではないのですが、国による繰出基準というのは、適正な基準なのではないでしょうか。実際のところ、繰出金によってカバーできている部分が少ないのではないかと思います。今後国による繰出基準の見直しも必要となってくるのではないのでしょうか。

(事務局) 現状では、国による繰出基準の見直しについては、動きはないかと思います。

#### 4. 今後のスケジュール

事務局より第3回の開催日程について、平成30年3月26日午後2時よりと説明し、了承される。

#### 5. 閉会

事務局より閉会のあいさつ

以上